

1. 基本理念

①利用者の健康と安全を最優先に

- すべての利用者の健康と安全を守るため、感染症の予防とまん延防止に最大限の努力を払い、施設内での感染拡大を防止する。

②感染症対策は全職員の協力が必要

- 感染症の予防及びまん延防止のためには、施設内の全職員が一丸となって取り組む必要がある。全職員に対し、感染症の基本的な理解と対策方法を徹底的に教育・研修する。

③地域との連携

- 地域医療機関や保健所、他の関連施設と密に連携を取り、必要な情報共有と支援を受けながら、感染症対策を実施する。

2. 感染症対策の基本方針

①感染症予防のための基本的措置

- 以下の基本的な感染症予防策を徹底する。
 - 手洗い・手指消毒**：施設内での手洗いと手指消毒を徹底し、スタッフと利用者に対しても啓蒙を行う。
 - マスクの着用**：スタッフ、訪問者、必要に応じて利用者もマスクを着用し、飛沫感染のリスクを減少させる。
 - 咳エチケットの徹底**：咳やくしゃみをする際のエチケット（ティッシュで覆う、口を袖で覆うなど）を遵守する。
 - 施設内の換気**：十分な換気を行い、空気の流れを保つ。特に密閉空間での換気に配慮する。

②感染症の早期発見と早期対応

- 利用者および職員の健康状態を日々モニタリングし、発熱や咳などの症状が見られた場合には早期に対処する。感染症が疑われる場合には、速やかに医師の診断を受け、指示に従う。

3. 施設内感染症対策の具体的施策

①感染症予防に関するガイドラインの遵守

- 施設内での感染症予防のため、以下のガイドラインを策定し、職員全員が遵守する。

1. 利用者との接触時の感染防止対策

- 必要に応じて个人防护具（PPE）の使用（手袋、マスク、フェイスシールドなど）。
- 直接的な接触を避けるために、非接触型のコミュニケーション方法や物理的距離を取る。

2. 施設内の清掃と消毒

- 施設内の共有部（トイレ、ドアノブ、手すりなど）は頻繁に消毒を行う。
- 特に感染症が発生した場合、強化された清掃と消毒を実施する。

3. 隔離と施設内移動制限

- 発症者や感染が疑われる利用者については、施設内で隔離し、他の利用者との接触を避ける。
- 感染拡大を防ぐため、施設内での不必要な移動を制限し、必要最低限にとどめる。

4. 体調不良者への対応

発熱や風邪症状がある場合には、出勤を控え、休養を取ることとし、症状が悪化した場合には医師の診断を受けること。発症した利用者の移動を制限し、専用の隔離エリアでの管理を行う。

4. 感染症発生時の対応と報告体制

①感染症の発生時対応

1. **感染者の特定と隔離**：感染が確認された場合には、その利用者を速やかに隔離し、他の利用者とスタッフへの感染拡大を防ぐ。
2. **感染経路の特定と追跡**：感染経路を追跡し、必要に応じて他の利用者や職員の検査を行う。感染源が特定できた場合、その対策を速やかに実施する。
3. **施設内の消毒と再評価**：感染症発生後、施設内の全面的な消毒を行い、状況に応じて施設の運営を再評価する。

②報告体制の確立

1. **感染症発生時の報告**：施設内で感染症が発生した場合、速やかに施設内の上層部、地域保健所、関連医療機関へ報告を行い、指示を仰ぐ。
 2. **情報共有と外部との連携**：地域保健所や他の関連機関と連携を取り、感染症のまん延防止に向けての協力を行う。
-

5. 職員教育と研修

①感染症対策に関する定期的な研修

1. **新型感染症対策の教育**：新たに発生した感染症に関する情報を職員に提供し、対応方法を定期的に更新・研修する。
 2. **基本的な感染症予防の知識と実技訓練**：手洗いや消毒方法、マスク着用の正しい方法など、感染症予防に必要な知識と技術を実践的に教育する。
 3. **リーダーシップ研修**：感染症が発生した際に適切な判断を行うためのリーダーシップ研修を行い、責任者を明確にする。
-

6. 感染症の予防における外部との連携

①地域医療機関や保健所との協力

- ・施設内で感染症が発生した場合には、地域医療機関や保健所と速やかに連携し、適切な指示と支援を受ける。また、定期的に感染症予防に関する情報交換を行う。

②関係機関との情報共有

- ・他の医療機関や福祉施設、地域の保健機関と情報を共有し、感染症の予防と拡大防止に向けた共同作業を行う。
-

終わりに

感染症の予防およびまん延防止は、施設内での基本的な感染症対策を徹底することが最も重要です。この指針に従い、職員一人ひとりが責任を持って取り組むことで、利用者の健康と安全を守るとともに、施設内での感染拡大を防止することができます。